

# きたうらワンと探そう! 街のステキ

2012年10月28日 北浦和西口銀座商店街

**ハ**ロウィンムードが高まる10月末の日曜日、さいたま市北浦和のとある商店街でワークショップ(きたうらワンと探そう! 街のステキ)がおこなわれました。この取り組みは、商店街振興組合と埼玉大学石上研究室が協力して計画したワークショップで、昨年度(2011年12月)に実施された〈回遊美術館II〉において埼玉大学の学生がデザインした、商店街のマスコットキャラクター「きたうらワン」の存在をアピールし、今後の展開を誘引することを目的として企画されました。具体的な活動は次の通りです。

参加者には「きたうらワン」のぬいぐるみとデジタルカメラを渡し、埼大生といっしょに商店街のステキを探して撮影するように伝えます(商店街のステキとは、お勧めの景色や知られざる名品、そして紹介したい人物、と

しました)。最終的には撮ってきた画像から数枚を選び、選んだ理由を発表し合うことで商店街の魅力を共有するとともに、キャラクターを通じて広がるアートの可能性を模索することをねらいとしました。

当日の天候は今ひとつでしたが、地域の小学生が4組参加してくれました。子どもたちは、説明もそこそこに街へ飛び出していきます。お店屋さんの店先に立っただけで、ぐいぐい中に入り込んで店主さんとのツーショットをゲットします。そんな時、「きたうらワン」は格別の笑顔を引き出してくれました。また別の子どもたちは、店先の商品棚に「きたうらワン」を置き、次つぎと撮影していきます。ミカンや山にうずもれる「きたうらワン」は、どこか誇らしげです。商品のアピールにひと役買っているつもりでしょうか。

まとめの発表会ではすてきな画像とともに

に、子どもたちの独創的な視点や発想の話が聞けて、ひとまずワークショップの目的を達成することができました。

今回の活動を振り返ってまず思い浮かぶのは、まちの方がたからさまざまな提案をいただけたことです。たとえば、「兄弟や友だちなど、関連するキャラクターを作ってはどうか?」とか、「バッジやシールなど、いろんなグッズ展開ができるんじゃない!?」といった具合です。そして何より大きな収穫は、すでに「きたうらワン」というキャラクターの存在がまちの人びとに認知されていて、それぞれに物語を紡ぎはじめているという事実です。個人的には、この空気感を体験できたことがもっとも重要な成果だと考えています。

今後は、この物語の種を大事に育てて、さらに大きな「ステキ!」が起こることを夢想する次第です。 石上城行 (SMF運営委員)



# 段ボール笛をつくって きたうらワンとアートパレード

2012年11月18日 埼玉県立近代美術館 創作室/北浦和西口銀座商店街

**S**MFの常連アーティスト松本秋則さん(不思議美術家)が、種々多彩な“竹のサウンドオブジェ”を携えて北浦和にやってきました。今回は西口銀座商店街のマスコットキャラクター「きたうらワン」とのコラボレートです。竹筒と段ボールを組み合わせた笛を作り、演奏しながらまちをパレードするワークショップに、見学者を含む7チーム計16名の親子が参加しました。

ワークショップの冒頭では、講師の松本さんがたくさんのオリジナルの竹楽器をパフォーマンスで紹介しました。手に持ったり、足を使ったり、水を使ったり……、どの楽器も奇想天外で予想外の音を奏でます。参加者も手に触れて、さまざまな音を鳴らしました。

続いて、段ボール笛づくりです。各チームで力を合わせて笛を組み立てます。参加者の真剣な表情と、あーだこーだと試行錯誤の音が行き交います。できあがった段ボール笛を鳴らしてみると、ワグワグ、ワーッ、ワーッと音が多様に変化しました。そして、音をイメージしたカエルやブタなどのキャラクターを描いたり、カラーテープなどで装飾したりして、すてきな楽器に仕上がりました。「きたうらワン」のぬいぐるみも抱っこして美術館から商店街へと飛び出して、子どもも大人もいっしょに楽しく演奏しながらの賑やかなパレードのはじまりです。商店街では、まちの人

のあたたかな笑顔に迎えられました。途中、横内酒店に立寄り、ご主人からのクイズの出題で盛り上がりました。大通りを渡って公園にもどっても人びとの注目を集め、最後は美術館のエントランスでの大合奏。みんなの「ヤッター!」の気持ちがファンファーレとなって、秋の澄んだ青空に高く鳴り響いたのでした。

赤木恵理 (SMF協力委員)

## 商店街とアートの縁結び・そのゆくえ

SMFと北浦和西口銀座商店街との連携アートプログラムは今年で4年目です。これまでは、まちなかを舞台にした展示会をSMFが主催し、商店街・各店舗からご協力をいただくのが恒例でしたが、今年度は企画を一新。美術館と商店街との相互主体的な関係を目指して地域の行事にSMFが入り、アートで新しい息吹を吹き込むプロジェクトを試みました。7月と9月に行った「地域連絡会」には商店街有志の方が多数集まり、まちのハロウィンイベントも絡ませながら2本のワークショップを開催するにいたったのでした。

ワークショップでは地域の子どもたちが主役となり、まちの魅力と人びとの笑顔を引き出してきました。その仲立ちをしたのが、昨年の〈回遊美術館II〉で生まれた「きたうらワン」です。ぬいぐるみの出動とともにじわじわと認知を広め、「季節ごとのコスチュームを着せてまちの行事の盛り上げ役にできないか」



「特許を出願して対外的にもアピールしては」といった案が、まちの方から挙がっています。また2008年から毎年商店街で表現活動をしてきた松本さんもすっかり顔なじみになり、まちで交わされる挨拶にも年々親しさが増しています。こうして培われた経験や人材、まちの新たなコミュニケーションツールを活かし、「美術館のまち」北浦和のイメージをどう創っていくのでしょうか。これからも美術館・商店街・大学の縁を深め合い、互いに活気を増していけたらと願っています。

小野寺茜 (SMF事務局)

